

4. 新設キャトルステーションにおける衛生対策推進の取り組み

玖珠家畜保健衛生所

○（病鑑）坂田真友子・（病鑑）磯村美乃里・山岡達也

【はじめに】

当管内は、繁殖経営主体の黒毛和種生産地域であり、令和6年4月に県内2カ所目となるキャトルステーション（以下CS）が運用開始された。当所は建設準備委員会から計画や課題解決に携わり、運用後はCS運営協議会に参加し飼養衛生管理の面からアプローチしている。国内経済情勢の影響による生産コスト高騰と市場価格低迷の狭間で、CSが目的に沿った運営を行うために、委託者（生産者）に対する衛生対策推進に苦慮してきた。様々な飼養管理形態から集合飼育する問題もある。委託者にCSでの衛生対策について基本的事項を理解してもらうための取り組みを重点に、その内容を報告する。

【CSの概要と運用体制】

運営はJA主体で、委託範囲はK郡2町、市場出荷まで概ね生後4ヶ月齢の子牛を受入れる。子牛市場と農業系高校に隣接し、畜舎2棟に子牛180頭、臨時的成牛20頭収容できる。常駐管理は広域指導員2名（県OB）とJA係員（3名）で、当所は運用前からアドバイザーとして関わり、T市CSを参考に協議を繰り返して衛生管理プログラムを検討、運用後は衛生対策を主体に従事者や委託生産者に対し指導を行った。

【衛生対策に係る検査内容及び結果】

- (1) 受入前：臨床検査、鼻粘膜ワクチン接種確認
- (2) 受入日：体測、体温、血液 生化学検査、糞便検査、投薬（駆虫・ビタミン）
- (3) 検査結果：受入時より軟便、脱水、発熱、ワクチン未接種個体が散見され、生化学検査（BUN、TP、T-CHO）を7月から追加し対応。コクシジウムオーシストが20戸中15戸31頭から検出。検査結果から飼養管理の改善を目的とした基本的衛生指導を実施した。

【子牛市場出荷に係る考察】

8月市場出荷8頭及び9月市場出荷11頭の増体や価格について市場平均と比較した。8月出荷は去勢、雌ともに5万高値で取引、増体重DG(1.08)は市場平均(1.06)よりも大きく、発育は概ね良好であった。9月出荷は去勢の平均日齢が市場平均(276日)より2日短く、平均体重は9kg大(市場292kg、CS301kg)、雌は平均体重が14kg大(市場276kg、CS290kg)、増体は良好であった。

【まとめ】

4月の運用開始からこれまで、CSにおける事故や死産は発生しておらず、市場出荷牛についても一部の購買者や他の生産者から良い評価の声も聞かれている。しかしながら、受入れ時のボディコンディションや発育にばらつきが見られ、生産農場での飼養衛生管理に改善が必要と考えられた。

今後も運営協議会の中で意見交換を行い、委託者との相互理解を深めながら、飼養衛生管理に関する意識醸成をこれまで以上に推進したい。受入れる子牛の斉一化を図ることでCS出荷牛の評価向上に繋がると考える。